

と記され、奚傳には

帝(玄宗)世凡八入朝、至德大曆間十二、貞元四年與室韋攻振武、後七年幽州殘其衆六萬、德宗時兩朝獻、元和元年君梅落身入朝、拜檢校司空歸誠郡王、以部酋索氏、爲左威衛將軍薊州游奕兵馬使、皆賜李氏、然陰結回鶻室韋兵、犯西城振武」

と記さる、契丹の唐に附したるは、貞觀二年以來の事にして、其の酋長は皆唐の官爵を受け、天寶五載四月にも〔八五〕「封奚王婆固爲昭信王、仍授驍樂府都督、契丹王楷維爲恭仁王、仍授松漠府都督」と記さるゝが、其の後會昌二年に至る迄は全く此の事無きを以て見れば、唐書の記事は全く實を得たるものにして、少くとも至德以後は、契丹は回鶻の勢力の下に歸したるものなるが如し。奚につきては茲に引けるが如く、元和元年に其の君長梅落入朝し、部下の酋長も唐の官爵を受けしこと記さるれども、〔八六〕然も此の時に於ても亦回鶻と結びたりと見ゆれば、思ふに又至德以來契丹と其の行動を共にし、回鶻に附したるものなるべし、果して然らば此等の兩部の回鶻に付きしは、又此の可汗の時代の事なりしを認めざる可らざるが如し。

第三章 牟羽

〔八七〕 Tangridā qut bulmīs il tutmīs alp külüg bilgä yayan
(唐より與へたる徽號を英義建功と曰ふ)

〔愛〕登里囉汨沒密施頡咄登密施合俱錄毗伽) 可汗の時代

乾元二年四月磨延賧の死するや舊唐書迴紇傳には、「長子葉護先被殺、乃立其少子登利可汗、其妻爲可敦」と記し、新唐書回鶻傳には